八代のアサリ漁業V字回復実証事業委託業務
仕様書

1 業務名

八代のアサリ漁業V字回復実証事業委託業務

2 業務の目的

八代市では、第2期八代市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、人口減少を抑制し、持続可能な地域社会を築くことを目標に、若者を中心とした多様な世代が生き生きと暮らし、働き、子育てできる”やつしろ”を目指している。特に、本市の主要産業である農林水産分野では、「稼げる農林水産業の推進」を基本戦略の1つに掲げ、スマート農林水産業の推進に向けた「水産業へのスマート技術の導入支援」をはじめ、農林水産物のブランド確立・販路拡大に向け「民間ECサイト等のITを活用した販路の開発」、「消費者ニーズを踏まえた新商品開発」を目指しているところである。ただ、近年は、様々な海象環境の変化等の複合的な要因により浅海域の水産資源が減少し、平成20年以降は主要水産物であったアサリの激減とノリの不作により、漁業就業者や経営体数が減少する一方で、残された漁業就業者の高齢化も進み、持続可能な水産業の維持に向け厳しい経営状況が続いている。

本業務は、八代の水産業の要ともいえるアサリを対象に、「漁獲量の拡大」、「漁業収益の向上」の2つの視点に着目し、デジタル技術・機器を活用した実証事業を通じた効果と課題を検証、漁業就業者の収益安定化、深刻化する後継者不足の解消を図ることを目的とするものである。

3 委託期間

契約締結日から令和8年3月27日（金）までとする。

4 業務の内容

業務の内容は、以下に記載する業務とする。

ただし、業務実施にあたっては、その一部に学術研究機関との連携及びデジタル技術・機器等を活用した取組を含むこととする。

また、実証試験の内容は、時間や経費等の観点から、採算性を考慮したものであり、将来的に漁業（生業）として実現可能性のある内容であることとする。

(1) 業務計画

業務内容や工程を精査し、円滑な業務遂行のために業務計画を作成するとともに、その進捗管理を適切に行う。

(2) 八代産アサリの垂下式育成の実証

これまで、12月から3月の低水温期に八代市大島地先及び千反地先で実証試験を実施し、一定の効果が確認されるとともに以下の課題が確認された。

- ①低水温期（12～3月）以外の時期の育成効果が不明
- ②従来の垂下式育成の手法は風や波浪等による影響をうけやすい
- ③育成カゴの付着物が多い

そこで、本業務では、垂下式育成の効果をより高め、本格導入することを目的に、

①～③の課題の解決につながる実証試験を行うとともに、実証期間の海域環境データも併せて収集する。

垂下式育成実証試験の手法、効果検証項目を企画検討し、実際に実証試験を実施す

ることで、垂下式育成手法の効果と課題を把握する。

また、海域環境データについては、データ収集の手法、収集するデータ項目を企画検討し、実際の垂下式育成漁場でデータを収集し、実証試験で得られた効果と課題の要因把握の基礎資料として活用する。

(3) 産地別アサリの特性比較

これまで、12月から3月に他地域産アサリと八代産アサリを比較することで、その優位性や八代管内の漁場特性が明らかとなったが、他の時期の特性が不明である。

そこで、本業務では、(2)の実証試験時に垂下式育成アサリのデータ収集に併せて、八代産アサリに関するデータを収集し、特性データの補完をすることで、その優位性を把握する。

アサリのデータ収集・比較手法及び比較項目を企画検討し、企画した比較分析を実施することで、八代管内のアサリに関する特性把握の基礎資料とする。

(4) ブランド化に向けた試験販売

八代産アサリのブランド化に向け、漁協直売所での販売や地元イベント等での販売を行ってきたが、予想を上回る消費者からの反響があり、従来の販売方法では対応が追いつかない状況にある。

そこで、本業務では、さらなる販売の拡大・効率化により、漁業者の収益向上を図ることを目的とし、オンラインや既存のツールを活用した販売の実証、経理省力化のための取り組み及び必要な情報発信等を企画検討し、今後のブランド化に向けた販売戦略の基礎資料とする。

(5) 八代産アサリの魅力を伝える観光漁業の実証

潮干狩りをはじめとした観光漁業においては、近年非常にニーズが高いものの、それに対応した取り組みがほとんどない状況にある。

そこで、本業務では、アサリを漁獲した収益のみではなく、観光漁業等の体験やイベントを通じて地域資源の魅力を伝え、漁業者の収益向上を図ることを目的とし、観光漁業の体験イベント、そのイベントの実施手法、効果検証項目等を企画検討し、それらを実施することで効果と課題を検証し、漁業者の新たな収入源とすることに向けた観光漁業の基礎資料とする。

(6) 漁獲作業の省力化実証

アサリの漁獲量の拡大を図るためには、食害対策の取り組みが重要であり、これまでは被覆網設置を実施し、一定の効果が確認されている。しかし、被覆網に付着物が発生することで、そのメンテナンスや張替え作業等が負担となっている。

そこで、本業務では、被覆網の付着物低減に視点に置いた省力化実証試験を実施する。省力化実証の手法、効果検証項目を企画検討し、実証を通して効果と課題を検証、今後の漁獲量拡大の基礎資料とする。

(7) 八代うまかアサリ研究会の運営・支援

業務実施については、研究会による会議を開催し進めるものとし、研究会の運営・支援として、「会議資料の作成」、「会議での資料説明」と「協議録の作成」等を行うものとする。

なお、本年度業務による研究会の会議は「4回以上」の開催を予定する。

5 業務実施に必要な手続き等

- (1) 受注者は、業務を実施するために必要な手続きを行うとともに、その内容を遅滞なく発注者に報告しなければならない。
- (2) 受注者は、(1)について協議を必要とする場合、または協議を求められた場合は誠意を持って対処し、その内容を議事録にまとめ、遅滞なく発注者に届け出なければならない。
- (3) 受注者は、業務を実施するため、公有地または私有地に立ち入りまたは使用・占有する場合は、あらかじめ発注者に報告するものとし、発注者の指示を待って、所有者等の承諾を得るものとする。

(4) 受注者は、業務を実施するため、工作物等を一時使用するときは、あらかじめ発注者に報告するものとし、発注者の指示を待って、所有者の承諾を得るものとする。

6 委託期間中の報告

受注者は、委託期間中にあっても発注者の求めに応じて調査結果等の中間報告を行わなければならない。

7 成果品

(1) 本業務で収集及び作成した資料や議事録等の関係データ一式

※ 納品する電子データについては、汎用性が高く、PCで修正や編集が可能なファイル形式で作成すること。

8 契約方法

(1) 総額契約とする。なお、見積書には、消費税相当額を除いた総額を記入すること。

(2) 契約締結における消費税率等は10%とし、1円未満の端数は切捨てとする。

9 注意事項

(1) 受託者は、本業務に十分な経験と知識を有する者を配置すること。

(2) 受託者は、業務を円滑に遂行するため、随時事務局と打ち合わせを行い、業務集中時には確実に対応ができるようにすること。

(3) 受託者は、業務上知り得た個人情報やその他の秘密を他人に漏らすことはできない。また、業務終了後も同様である。

(4) 本仕様書に記載されていない事項であっても、業務の実施上必要と認められる事項については、事務局と協議の上、実施すること。

(5) 業務完了後、受託者の責任に帰すべき理由による不良箇所が発見された場合は、速やかに事務局が必要と認める訂正や補足、その他必要な措置を行うものとし、これに係る経費は受託者の負担とする。

(6) 業務に必要な資料、備品で発注者が所有している提供可能な資料、備品については、貸与する。この場合、貸与を受けた資料、備品については、そのリストを作成の上、発注者に提出し、業務完了後は、速やかに返却すること。

(7) 本業務で得られた成果品の著作権、利用権は、ホームページへの掲載を含め、発注者に帰属する。

(8) 本仕様書に定めのない事項及び疑義が生じた場合は、別途協議する。